

多田幼稚園での「すなやつちとなかよし」の実践を見学して

10月18日、多田幼稚園において幼小連携研修「すなやつちとなかよし」を見学しました。

多田小学校の1年生と多田幼稚園の年長組が交流するというもので、両校の先生が協働で指導計画を作られました。両校園はほぼ同じ敷地内にあり、また小学校1年生の中には多田幼稚園の卒業生も多数在籍されているようで、双方リラックスした雰囲気です。授業が始まりました。

砂場の周りにスコップや水・ビニール管などが置いてあり、子どもたちがそれを自由に使って遊び始めます。よく見ると自由に遊んでいるように見えて、次第に協力しながら工夫や役割分担が生まれている姿が見られました。「水は高いところから低いところへ流れるから、ビニール管に角度を付けなくちゃいけない。」「どうやってつけるのか」「固定するのか」など、それぞれ試行錯誤しながらの取り組みでした。

これらの遊びや工夫は、自然に発生したように見えますが、実は先生方の絶妙な仕掛け、それは夢中になる子どもたちへの声かけのタイミングなどの支援や、用具の用意など環境構成など、が効いていたように思います。

小学校1年生という、学校での学習をスタートした段階で砂遊びをする体験を持ったことは、子どもたちが自然に学習と体験が結びつくことを体感できた良い機会であると感じました。また、場所が幼稚園ということによって、遊びの自由度も上がっていたのも、良かったのではないかと感じました。

幼稚園の園児たちにとっては、小学校へ上がる前に「小学校感」を感じられる良い機会になったように見受けられました。その経験があるのとないのでは、小学校へいった時の気持ちの持ちようが違ってくるように思うのです。校区内の校園所の交流が、円滑な小学校への移行を促す選択肢の一つだと感じました。